

港湾振興便り



2013. 8

第76号

*:

目 次

*:

- 1 ポートエッセイ 「日口の新たな経済交流 ～ウラジオ視察で手応え～」
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長 篠田 昭)～

2 トピック

- 「第3回みなとオアシスSea級グルメ全国大会」が苫小牧港で開催されました！！
(北海道開発局 港湾計画課)
- 鳥取・賀露みなとオアシス10周年へ向けて
(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)
- 関門港ポート天国が開催されました「北九州港」
(北九州港振興協会)
- 2013那覇港・海の日企画「海と港の魅力発見ツアー」
クルーズ船「スーパースター・アクエリアス」で船内見学会を開催しました
(那覇港管理組合 企画室)
- 海の日イベント「みなとフェスタ2013」を開催しました
(宮古島市 建設部 港湾課)
- 「2013みなとオアシスまつり」が開催されました
(酒田市商工観光部 商工港湾課)
- 「第28回東京湾クリーンアップ大作戦横浜港特別行事」を開催しました。
(関東地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)
- 国土交通省 海洋環境整備船「白龍」の一般公開
(中部地方整備局 名古屋港湾事務所)

3 お知らせ

*:

1 ポートエッセイ 「日口の新たな経済交流 ～ウラジオ視察で手応え～」

日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭

*:

今年4月の日口首脳会談を受けて、新たな日口交流がさまざまなレベルで模索されている。安倍・プーチン会談では「極東・東シベリア地域におけるエネルギー・農業・インフラ」分野での協力関係構築が確認され、日口関係は新しい段階に入った。ロシアの日本海側港湾の開発が注目されることは5月号で取り上げた通りだ。

対岸交流に力を入れてきた新潟市も、従来の中古車輸出や木材輸入に替わる新しい経済交流の糸口を見出そうと努めている。新潟ではロシア沿海地方から打診のあった「土地・環境にやさしい日本の技術を使った農用地開発」について、協力する意向と調査団派遣の用意がある旨、江藤拓農水副大臣からロシア側に伝達してもらっていた。

ロシア側が政府としても農業連携に積極的であること、それ以外にも医療技術協力、ゴミ処理などの都市環境技術に関心が深いことが確認できたので先月、2年ぶりにウラジオストクなど沿海地方を視察・訪問してきたので、報告する。

視察は7月10日から13日までで昨年、APECサミットを開催したウラジオは空港や高速道路、長大橋などインフラ整備が目覚ましく、サミット会場となったルースキー島は極東連邦大学の広大なキャンパスとなっていた。

農用地開発の候補地は以前、軍が農地として使用していた土地で、散在しているものを合わせると1万ヘクタールほどの規模となるという。2、3年前まで耕作されていた地域もあり、平坦でなだらかな地形だった。土地改良の専門家から見てもそれほど大規模に手を加える必要はなさそうだった。ウラジオやナホトカなどの拠点港にも近く、ビジネスプランのつくりやすい土地との印象だった。

アムール州などでは中国資本による農用地開発が進んでいるが、沿海地方では「葉もの野菜など、中国産は食べたくない。日本のものがナンバーワンということをわれわれはよく知っている」との言葉を何人もが口にした。

沿海地方やウラジオ市では日本の技術・投資への期待度は極めて高いものがあった。特に、プーチン大統領が進める極東開発の成果を少しでも出したい、との意欲が地方政府関係者に大変に強いと感じた。しかし、日口共同プロジェクトを推進する政策・制度は抽象的で、「ビジネスプランを日本から提案して欲しい」と、いわば丸投げの姿勢も感じられた。

*::~

2 トピック

*::~

●「第3回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会」が苫小牧港で開催されました！！

(北海道開発局 港湾計画課)

今年開港50周年を迎えた苫小牧港では、年間を通して数多くの記念行事が行われています。それら一連の行事のメインイベントである「第3回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会」及び「海王丸寄港イベント」が7月12日から16日にかけて苫小牧港西港区キラキラ公園にて開催されました。

メインイベントの皮切りとして、12日(金)、世界最大規模の帆船「海王丸」が苫小牧港に入港しました。入港時には約1,500人の市民が集まり、15年ぶりの寄港を迎えました。海王丸は16日までの期間、キラキラ公園に係留し、「セイドリル」や「船内見学」を行うなど、訪れた人々をその優雅さで魅了しました。

同じく12日には、Sea 級グルメ大会に全国からかけつけたみなとオアシス関係者やみなとまちづくり関係者らによる「みなとまちづくり研究会」が(一社)ウォーターフロント開発協会と北海道みなとオアシス活性化協議会の共催により開催されました。

林美香子慶応大学大学院特任教授を講師に迎え、「港とまちづくり」と題した基調講演をいただくとともに、約130名の参加者と港のにぎわい創出などについて活発な意見交換が行われました。

13日(土)、14日(日)には、「第3回みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会」が北海道で初めて開催されました。大会には、全国から15のみなとオアシスが集まり、それぞれのオアシス自慢のSea 級グルメを出店し、売上が相次ぐほどの大盛況となりました。来場者による人気投票の結果、「みなとオアシス八幡浜みなと」の「じゃこカツ」が優勝、2日間で2200人分を完売した地元「みなとオアシス苫小牧」の「ホッキモー」は惜しくも準優勝となりました。

また、会場内では、北海道のみなとの役割などを紹介する「北海道みなとパネル展」を開催し、たくさんの方々にご来場をいただきました。

今回の会場となった「キラキラ公園」は、工業港として発展してきた苫小牧港において、市民の憩いの場が少なかったことから、「港に親しめる場所」をコンセプトに整備され、開港50周年の節目の年に全面オープンした公園です。キラキラ公園は、みなとオアシス苫小牧の中心施設にも位置づけられており、Sea 級グルメ全国大会が行われた2日間で約5万人の市民が訪れました。開港から半世紀を迎えた苫小牧港の新たなウォーターフロントとして、これからの苫小牧港の憩いと賑わいの場を創出していきます。

苫小牧港は、北海道と本州を結ぶ多くのフェリー航路が就航する海の玄関口です。北海道へお越しの際には、是非、新たな苫小牧港にもお立ち寄り下さい。

苫小牧港開港50周年記念事業のHPはこちらから

→ <http://www.jptmk.com/tomakomaikou50th/index.html>



みなとまちづくり研究会～林教授による基調講演～



グルメ大会の様子



キラキラ公園と帆船「海王丸」



パネル展の様子

●鳥取・賀露みなとオアシス10周年へ向けて

(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)

鳥取・賀露みなとオアシスは、平成 16 年 1 月 30 日に全国で 2 番目に指定されましたが、全国 69 港ある「みなとオアシス」の中でも数少ない民間(NPO法人)主導で運営されており、10 年目を迎えます。ますます活気にあふれています。

鳥取・賀露みなとオアシスの西には、神話いなばの白うさぎで有名な白兔海岸、東には鳥取砂丘など国立公園指定 50 周年を迎えた山陰海岸(平成 20 年 10 月世界ジオパーク加盟承認)があります。

鳥取・賀露みなとオアシスの施設には、水産物直売所やボートパーク、緑地、海水浴場、遊覧船発着場などがあり、港のにぎわい創出に一役かっています。

夏の風物詩となっている、鳥取・賀露みなとオアシス夏まつりが特産である白いかをPRする賀露白いか祭りと連携する形で7月15日に同時開催され、ヒラメのつかみ取りや巡視艇とりかぜ体験乗船などが催されました。

また、鳥取・賀露みなとオアシスの中核施設となっている「かにっこ館」ですが、7月20日に、開

館以来の入館者数が 200 万人となり、平成 15 年 8 月 10 日の開館から 10 周年直前の快挙達成となりました。



鳥取・賀露みなとオアシス夏まつり



ヒラメのつかみ取り(複数の報道陣も)



賀露白いか祭り(白いか丼6品食べくらべ)



賀露白いか祭り(ゆるキャラ はな トリピー)

● 関門港ポート天国が開催されました「北九州港」

(北九州港振興協会)

海の日を記念して開催している「関門港ポート天国」を今年も盛大に開催しました。
北九州市政50周年及び開催25周年の節目の開催でもあり盛況の催しとなりました。
スイム&ランを皮切りに様々なイベントを通じてマリレジャーの楽しさを体感していただき、海の楽しさ、重要性、きれいな港づくりの理解を深めるとともに堪能していただきました。
当日は、関係者を含め13,000人の参加でした。来年の開催も楽しみとなっています。

■ 日時: 7月14日(日)

■ 会場: 北九州港 門司港レトロ地区及び西海岸地区

■ 主な行事

スイム&ラン、巡視艇一般公開、
海や港に関するパネル展

クルーザー・プレジャーボートの体験乗船、
消防音楽隊コンサート、海難救助訓練
キャラクター撮影会、お天気教室



●2013那覇港・海の日企画「海と港の魅力発見ツアー」

クルーズ船「スーパースター・アクエリアス」で船内見学会を開催しました

(那覇港管理組合 企画室)

那覇港管理組合では、平成25年7月30日(火)「スーパースター・アクエリアス船内見学会」を開催しました。当日は、参加定員60名に対し118通(応募は一口5名まで)もの応募があり、抽選により決定されました小学生から高齢者まで幅広い年代の方にご参加頂きました。

また、船側のご協力により、船内ショーの鑑賞やクルーズ船と那覇港の魅力学習として講演会も併せて開催しました。



中央は乗務員の方、「コニチハー」とあいさつされ、見学会開始！



ショーホール。広いっ！写真に収まりません！



最上デッキにはプールがあるのであちこちで写真撮影が始まりました



カール船長からのごあいさつもありました



船内ショーや講演会を実施したスカイラインラウンジ



鼓衆 ていーび の皆さんによる歓送アトラクション

●海の日イベント「みなとフェスタ2013」を開催しました

(宮古島市 建設部 港湾課)

今年も宮古島市平良港において、「みなとフェスタ 2013」(主催：宮古島市)を開催しました。

このイベントは「海の日」に関係するイベントとして、毎年7月第3月曜日に開催され、平良港の役割や歴史について学びながら海に親しむことのできる内容となって

います。

当日は、台風7号通過後ということもあり、予定されていた「水上バイク体験試乗」や「船で行く平良港内見学ツアー」への影響が懸念されたのですが、そのような心配をよそに好天に恵まれ青空のもと開催することができました。

会場となった平良港には約500名と多くの人々が訪れ、海の生き物と海の恵みに触れ合える「タッチプール」や「もずくつかみ取り」を楽しむ親子連れや観光客の姿などが見られました。

また、沖縄総合事務局平良港湾事務所による「平良港今昔物語」と題したパネル展では、昭和40年代の港の様子が紹介されたほか、港の整備と、その効果についてパネルを使用した説明があり、パネル展を訪れた方々は、当時を懐かしみながら生活にかかせない港の重要性や整備の必要性についてあらためて実感している様子でした。このような企画をとおして海と港について学び親しみ、老若男女が楽しめたことと思います。



水上バイク体験試乗の様子



船上からみなと見学の様子



タッチプールの様子



もずくつかみ取りの様子



パネル展の様子



水中バックホウデモの様子

●「2013みなとオアシスまつり」が開催されました

(酒田市商工観光部 商工港湾課)

7月27日(土)、酒田海洋センター周辺の「みなとオアシス酒田」を会場に「2013みなとオアシスまつり」が開催されました。まつり当日は、働く船の一般公開や国土交通省酒田港湾事務所業務艇「みずほ」による酒田港内見学会、海の生き物タッチプール、スタンプラリーなどが実施されました。

また、今回は新たに山形県内キャラクターとの写真撮影会や酒田カレーフェスタも実施され、会場内は家族連れなど多くの来場者で賑わいました。

みなとオアシスまつりは、酒田市内の関係団体で組織する「海の日」記念事業実行委員会が、海の日記念事業の一環として、海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う『海の日』の意義を広く市民、県民に啓発するとともに、賑わい創出空間としてのみなとオアシス酒田の形成推進と認知度向上を図ることを目的として毎年開催しています。



みずほ乗船風景



海の生き物タッチプールの様子

●「第28回東京湾クリーンアップ大作戦横浜港特別行事」を開催しました

(関東地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

東京湾クリーンアップ大作戦は、国や自治体が行っている東京湾の清掃活動をみなさんに知ってもらい、東京湾における環境保全の向上を図るため、海の月間に合わせて実施している活動です。この活動の一環である「横浜港特別行事」を、7月27日(土)に関東地方整備局、第三管区海上保安本部、横浜市港湾局の共催で開催しました。

横浜港新港ふ頭5号岸壁にて、関東地方整備局所属の清掃兼油回収船「べいくりん」、第三管区海上保安本部所属の消防船「ひりゆう」の船内見学や横浜市所属の清掃船の展示及び環境啓発のパネル展示等を行いました。第三管区海上保安本部による巡視船やしまの一般公開や海難救助訓練が同日開催されたこともあり、多くの来場者が訪れ、616名の方が「べいくりん」の船内見学をされました。

当日行ったアンケートの結果から、東京湾での清掃活動について知らなかったと回答された方が半分以上であり、今後もこのような行事の開催等をとおして、清掃活動や東京湾の環境保全についてPRしていきたいと考えております。



べいくりん見学者



べいくりん模型・環境啓発パネル見学者

●国土交通省 海洋環境整備船「白龍」の一般公開

(中部地方整備局 名古屋港湾事務所)

7月27日(土)に蒲郡市で開催された「蒲郡みなとフェスティバル」において、当名古屋港湾事務所所属の海洋環境整備船(清掃兼油回収船)「白龍」の一般公開を実施しました。

当日は571人の見学者が訪れ、流木回収のデモンストレーションや放水銃の体験、船長席に座っての写真撮影など行くと共に、航行船舶の安全性の確保と海洋環境保全のため、伊勢湾及び三河湾で作業を行っている浮遊ゴミ回収や油流出事故など災害発生時の油回収などについて説明やパネル展示を行いました。

また、一昨年発生の中日本大震災における仙台湾沿岸での災害支援活動(大量の流出・漂流

名古屋港湾事務所所属の海洋環境整備船「白龍」は、航行船舶の安全性の確保と海洋環境保全のため、伊勢湾及び三河湾の一般海域(約 1,800km²)の流木等の漂流物回収を行うとともに、油流出事故など災害発生時の油回収等を行う船舶です。



一般公開中の白龍



ごみ回収装置の見学



操舵室の見学



流木回収のデモンストレーション

* . * . * . * . * . * . * . * . * . * . * . * . * . * . * . * . *

[illegible]

e-mail: bcf06323@nifty.com

[illegible]